

#### (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関：上越教育大学教職大学院 連携機関：長野県教育委員会（長野県総合教育センター）
コラボ研修プログラム	事業名：長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携講座 ～今日的教育課題を解決するための研修講座～
支援事業報告書	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携講座 ～今日的教育課題を解決するための研修講座～  開催日時：①令和4年6月16日、②7月28日、③8月30日、④9月16日、⑤9月22日※各講座の内容は下記参照 開催時間：各日とも9時～16時 開催場所：①長野県総合教育センター（長野県塩尻市大字片丘南唐沢 6342-4）、②～⑤オンライン 参加人数（総数）と参加者の属性：5回総数 137人、教員学校内訳（小学校 67人、中学校 43人、義務教育学校 6人、高等学校 5人、特別支援学校 13人、私立学校 3人）講座毎内訳（38人、24人、18人、25人、32人）

**内容：**※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

- ① 6月16日(木) 効果的な集団づくり～これからの学級・学年経営～  
講師：上越教育大学 名誉教授 廣瀬裕一 大学院学校教育研究科 教授 赤坂真二  
内容：具体的な実践場面を通し、学年のリーダーはどのような連絡調整及び指導、助言するのか、法令を踏まえ考えた。また、教科経営と学級経営を共に学び合うことをねらいとし、教師と教師、教師と子供、子供と子供の関係づくりの重要性について理論とグループ演習を通し学ぶ場を作ることができた。
- ② 7月28日(木) ICTを活用した授業づくり～教科学習における効果的な ICT 活用～  
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 准教授 榊原範久 同 准教授 山田貴之  
内容：ICTの基本的な考え方 Google Workspace の効果的な活用について講義・演習をした。受講者同士の対話から、「主体的・対話的で深い学び」を実現した ICT 活用の姿や、テンプレートを他教科にも適用し、効果的に活用する方法について考える様子が伺えた。
- ③ 8月30日(火) 特別な教科 道徳～道徳科授業づくりの理論と実践～  
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 早川裕隆  
上越教育大学上廣道徳アカデミー 特任教授 小宮健  
内容：午前の講義にて「特別な教科 道徳」の授業の意義やあり方を理解し、午後の演習によって効果的な発問、補助発問、道徳的諸価値の理解や生き方に関して児童・生徒に理解してもらう方策を「多面的・多角的に考える」ことを体験したことが受講者にとって有意義な研修となった様子が伺えた。
- ④ 9月16日(金) 深い学びが生起する国語科授業～言葉による見方・考え方を働かせるには～  
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 片桐史裕 同 教授 古閑晶子  
内容：ICTを用いた授業の演習を通し、深い学びをデザインするためには、「問い」が重要であること、それを教師が保障すべきであることを理解するとともに、このような学びをどう実践すればよいのか理解し、グループワークを通じて学習者主体となる授業デザインを共有した。明日からの授業への活用に意欲的な受講者が多かった。
- ⑤ 9月22日(木) 小中学校における特別支援教育～多様な児童生徒の実態把握と指導・支援～  
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 藤井和子 同 准教授 関原真紀 同 講師 坂口嘉菜  
内容：特別な配慮を要する子供への具体的な指導・支援を考えるうえで、子供の将来を意識した具体的な学校運営、学級運営、授業づくりをデザインし、そのためにはどのような実態把握や教師間連携が必要なのかについて講義・演習をした。研修の成果を生かしたいという前向きな声が多く寄せられたことから、講座のねらいを達成できたと思う。

**成果：** ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

＜参加者の声＞

- ① 学年主任としての立場を法的視点と教育的視点から考えることができた。演習では他校の先生方と活発に議論ができた。学年主任としての立ち位置に迫る効果的なテーマだと感じた。学級経営とは何か、感覚的で漠然としていたものがどどんぐリアにはっきりとしてきた感覚がありました。
- ② ICT 活用を進めるべきなのか、改めて考えさせられました。社会の目まぐるしい変化に対応して生きていける子どもを育てるためにも、中学校で多くのツールに触れさせ、タブレットが文房具のように日常的に使う道具という感覚を養えるようにしたいです。
- ③ 自然と「しゃべりたい!」、「自分の声を聴いてほしい!」と思うことができ、こんな道徳授業をつくりたいと思いました。
- ④ 実演していただくことにより、自分自身が活用するイメージをつかむことができ、また講座内で実際にトライしてみることで、実感をつかむことができた。何のために今この活動を生徒に促しているのか、ということに常に意識しながら、生徒とともに「変わる」気構えを持って、恐れずに日々の授業実践に取り組んでいきたい。
- ⑤ グループ内での話し合いで、自立活動のねらいの明確化について、学ばせていただきました。通級の児童が支援級で学ぶとき、半分は教科学習をした後に後半は好きな活動をしている話をしたところ、その活動が良い悪いではなく、ねらいを教師側が持っていることが大事と教えていただいた。同じ活動でも教師の意識によってその活動の意味合いが変わることを感じました。

**アイデアや工夫したこと：** ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- ・講座内容は、長野県教育委員会（長野県総合教育センター）と協議し、長野県の教育事情、ニーズをもとに設定し、講師を選定した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により急遽オンライン形式となった②～⑤講座は、長野県総合教育センターから ZoomID や、GoogleClassRoom を提供してもらい、講座参加者にログインしてもらう形で資料等を配付した。
- ・④講座では、大学教員側が理論的な部分を、長野県総合教育センター職員が演習的な部分を担当し、双方で講座を創り上げた。

＜写真・図など＞ ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

